エイドリアン・バーグ：無限の庭園

2026年1月24日（土）〜4月12日（日）

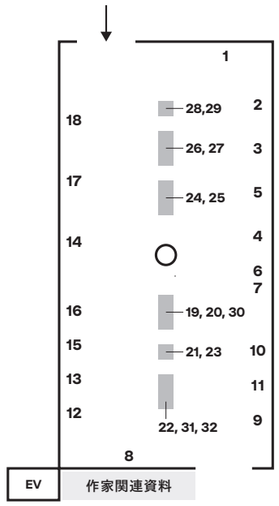
主催：広島市現代美術館
協力：Frestonian Gallery、Adrian Berg Estate
後援：広島県、広島市教育委員会、中国新聞社、朝日新聞広島総局、毎日新聞広島支局、読売新聞社広島総局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、尾道エフエム放送

広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

会場写真撮影可

すべての作品は、撮影およびSNSなどへの投稿が可能です。
動画撮影はご遠慮ください。

［凡例］
・本ハンドアウトには、作品リストとして、カタログ番号、タイトル、制作年、素材・技法、寸法、所蔵者を記載しています。
・いくつかの主な作品についての解説文を含みます。



第1章
リージェンツ・パークの時代

1
3月の風景
1966
テンペラ、アクリラ・カンヴァス
56.2×76.8 cm
Estate of the artist

2
グロスター・ゲート（リージェンツ・パーク）、2月・3月・4月・5月・6月
1977
油彩・カンヴァス
178×178 cm
個人蔵

3
グロスター・ゲート（リージェンツ・パーク）、夏、秋、冬
1977
アクリル・カンヴァス
177.8×177.8 cm
東京都現代美術館蔵

4
リージェンツ・パーク、グロスター・ゲート、4月
1982
油彩・カンヴァス
177.8×177.8 cm
個人蔵

5
グロスター・ゲート、リージェンツ・パーク、夏
1981
油彩・カンヴァス
101.5×101.5 cm
Estate of the artist

6
キューガーデン、8月10日
1984
油彩・カンヴァス
46×61 cm
Estate of the artist

7
キューガーデン、8月16日
1984
油彩・カンヴァス
46×56 cm
Estate of the artist

8
シェフィールド公園 1985-86年秋
1985–1986
アクリル・カンヴァス
280.2×280 cm
広島市現代美術館蔵

第2章
移動ののちに
——見ることの距離、描くことの広がり

9
レイトン・ホール、7月15日
1991
油彩・カンヴァス
132×188 cm
Estate of the artist

10
ストアヘッド、8月6日
1992
油彩・カンヴァス
188×132 cm
個人蔵

11
ストアヘッド、8月16日
1991
油彩・カンヴァス
101.5×142 cm
Estate of the artist

12
ビーチー岬、5月6日（ホリウェル）
1995
油彩・カンヴァス
76×122 cm
個人蔵

13
キューガーデン、8月21日
1998
油彩・カンヴァス
76.5×91.5 cm
Estate of the artist

14
ダイヤモンド・リバーサイド・ホテルより、チェンマイ、10月
2001
油彩・カンヴァス
63.5×76.5 cm
Estate of the artist

15
ツリーハウスより、リッポン・リー、メルボルン、11月7日
2001
油彩・リネン
62.5×45 cm
Estate of the artist

16
植物園、マデイラ、10月23日
2005
油彩・リネン
64×76 cm
Estate of the artist

17
ストアヘッド、6月25日、26日、27日
2000
油彩・カンヴァス
188.3×395.9 cm
個人蔵

18
ファーストレイク、シェフィールド・パーク・ガーデン、サセックス・ウィールド、9月16日、28日
2011
油彩・カンヴァス
63.5×76 cm
別府大輔氏所蔵

19
グロスター・ゲートの習作スケッチ
c. 1970'
水彩・紙
9.5×42.5 cm（×2）
9.5×55 cm（×2）
Estate of the artist

20
ウェイクハースト・プレイス、5月5日
1988
ペン・紙
34×50 cm
Estate of the artist

21
ファーストレイク、シェフィールド公園、8月10日
1988
ペン・紙
30×39 cm
Estate of the artist

22
ビーチー岬、12月3日-26日
1995
水彩・紙
各9×22 cm（7点組）
Estate of the artist

23
ストアヘッド、7月1日
1999
水彩・紙
36×50 cm
Estate of the artist

24
ストアヘッド、6月16日
2000
水彩・紙
51×36 cm
Estate of the artist

25
ファーストレイク、シェフィールド公園、9月5日、6日
2002
水彩・紙
46×61 cm
Estate of the artist

26
ファーストレイク、シェフィールド公園、9月17日、19日
2002
水彩・紙
46×61 cm
Estate of the artist

27
ファーストレイク、シェフィールド公園、2002年9月26日、2003年9月12日
2003
水彩・紙
46×61 cm
Estate of the artist

28
作家のスケッチブック（リージェンツ・パークの制作展開に関するスケッチ）
1966
ミクストメディア
36×24 cm
Estate of the artist

29
作家のスケッチブック（リージェンツ・パークの制作展開に関するスケッチ）
1966
ミクストメディア
36×24 cm
Estate of the artist

30
作家のスケッチブック（日記）
1987
ミクストメディア
30.5×21.5 cm
Estate of the artist

31
作家のスケッチブック（レイトン・ホールの絵画の記録地図）
1991
ミクストメディア
36×24 cm
Estate of the artist

32
作家のスケッチブック（マデイラ植物園の絵画の記録地図）
2005
ミクストメディア
36×24 cm
Estate of the artist

4 《リージェンツ・パーク、グロスター・ゲート、4月》1982

本作では、複数の異なる視点から捉えられた風景が正方形の画面に統合されている。それぞれの視点で描かれた風景は、一定の秩序を保ちながら慎重に組み合わされ、画面のどの辺を上部にしても成立する、回転可能な構造を備えている。

360度の全景を一画面に収めるこの手法は、バーグが兵役時に習得した地図作成の技術をもとに編み出されたものである。植生の多様性や主要な構造物、斜面といった地形の特徴を図式的に記録するその技術によって、日々公園を眺め、歩くなかで蓄積されたバーグの身体的な経験がキャンバスに織り込まれている。方向性を定めない正方形の構図によって、見る者の視点は画面の中央に置かれ、部分と全体とを往還する。その視線の移動は、画面に描かれた時間と空間の重なりをたどる行為であり、そこでは風景は固定された眺めではなく、再構成されたひとつのイメージとして立ち現れる。

8 《シェフィールド公園 1985-86年秋》1985–1986

20年以上もの間、アトリエから見えるリージェンツ・パークを描き続けたバーグだが、特にロンドンを離れる1988年までの数年間、他の主題として描いた場所がいくつか存在する。そのひとつが、サセックス州のウィールドと称される地域にあるシェフィールド公園である。自然の模倣を目指した丹念な設計を特徴とする、イギリスの風景式庭園の代表例として知られている。バーグは晩年に至るまでしばしばこの地を描いており、長く愛着を育んだ題材のひとつであった。

本作では、秋の色鮮やかな草木と水面への映り込みが帯状の区画に描かれ、それらが複数組み上がることで、ひとつの正方形のキャンバスとして構成されている。この手法は、異なる季節をひとつの画面に収斂させた《グロスター・ゲート（リージェンツ・パーク）、夏、秋、冬》と共通しながらも、本作ではむしろ、絵画におけるバーグの空間表現の探究を見ることができる。草木が映り込む水面の波紋が、真下に描かれた木々へと融け込むように描かれることで、まるで万華鏡のように、画面の中の風景が際限なく展開していくかのような効果がもたらされている。

11 《ストアヘッド、8月16日》1991

リージェンツ・パークを離れた後、バーグが絵画表現を探究する重要な画題のひとつとなったのがストアヘッドの風景であった。ロンドンから100kmほど西に位置し、シェフィールド公園と同様イギリスの代表的な風景式庭園に数えられるこの場所では、地上の密生した植生と水面への反射という主題に特段の関心が寄せられた。

本作において筆触はより大きく、枝葉の描き込みも大振りになる変化がみとめられる。ストアヘッドが主題の同年代の作品では、キャンバスに画面を二分する水平線を配し、地上の草木がゆらぎのない水面にくっきりと映る光景を線対称で描く、本作と同様の構図がしばしば取り入れられた。みずみずしさを増した色彩で、湖面への映り込みを鏡像のように描き、見る者の方向感覚に揺さぶりをかける表現が探究されている。これらの自然の形態を捉える筆使いと空間表現の発展は、絵画の前に立つ者を包み込むようなスケールを持つ晩年の形式への足がかりとなった。

17 《ストアヘッド、6月25日、26日、27日》2000

3枚のパネルによって横に大きく展開された画面に、ストアヘッドの草木と湖面に映る景色が、見る者を包み込むようなスケールで描かれている。タイトルはバーグが現地に赴いた日付を示し、異なる時間軸が一枚のパノラマの絵画に再構成されている。絵具の扱いに自らのコントロールを離れた偶然性を求めたバーグは、絵具をそのまま滴らせる手法を90年代後半以降の制作に取り入れるようになっていた。垂直に伸びる軌跡は、ストライプ状の波紋と大胆に交差しながらも、重力を感じさせない軽やかさで色彩のみずみずしさをいっそう際立たせている。アトリエで記憶を呼び起こしながら再構成を行う過程で、画家が現地で目にしたあらゆる感覚―青々と眩い草木の色彩から、さざめく湖面のきらめきに至るまで―が精製された、晩年の大作である。

19–32

アトリエでの制作において欠かせなかったのが、作品の題材となる現地に赴いた際、持ち運びの便利なスケッチブックや紙面に描かれた素描や水彩画であった。後者は、特にアトリエの窓から直接見渡すことのできたリージェンツ・パークを離れて以降、描く対象の色彩を持ち帰る手立てとしてよりいっそう重要な媒体となっていった。スケッチブックには現地での観察に基づくデッサンのみならず、絵画制作のための概略図や、使用する絵具のメーカーや色を示す「地図」、愛読した詩の抜き書きに至るまで、様々なことがらが描きとめられている。バーグの絵画制作における綿密で複雑な過程を明らかにするとともに、その思考や内面世界を伝える記録でもある。